

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102364		
法人名	社会福祉法人 義風会		
事業所名	足守荘グループホーム		
所在地	岡山市北区下足守1898番地		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成23年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人全体の理念『生きがいの探求・生きがいの創造』を念頭におき、『1.利用者様が主体となるグループホーム、2.利用者様が日々穏やかに過ごせるグループホーム 3.コミュニケーションを重点に置き、心のケアができるグループホーム 4.利用者様が望まれることを把握し、対応出来るグループホーム 5.気軽にいろいろな方が立ち寄れるグループホーム』を足守荘グループホームの基本理念としています。各利用者様の個性を尊重して、安心して穏やかに生活して頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢化の進む地域の安全・安心の心強い味方として、数々の関連事業所を抱える法人をバックに、医療・介護の連携が取れており、セラピー犬を導入しての認知症ケアに取り組んでおられます。毎週の移動販売は、楽しみが持てると同時に、地域の方も買い物に来られ、新しい交流が生まれているようです。若年性認知症の方や目の不自由な方など、症状や対応方法などの情報を集め、スタッフ間で共有し、よりよいケアを目指して頑張っておられます。長期就業者が多く、利用者とのコミュニケーションが取れており、表情も明るく家庭的な雰囲気でも過ごしておられます。自己評価・外部評価をもとに、次のステップに向けて目標達成計画を作成しており、言葉遣いや態度、正確な体調観察に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者主体、穏やかに生活出来る、心の通うケア、利用者様の要望の把握、気軽に立ち寄れる」というホームの理念を職員全員で共有し、実践出来る様に努めている。	法人の理念「生きがいの探究・生きがいの創造」を基本に、事業所独自に5つの理念を定め、利用者を主体に穏やかな日々が送れるよう、会議や日常のケアの中で確認し合い、実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアさんの来所や移動販売の利用、園児とのふれあいなどで接する機会を持つようにしている。	絵手紙やカラオケなどのボランティアや園児・児童とのふれあいの機会があり、週1回の移動販売には利用者はもちろんのこと、併設の福祉施設をはじめ、近所の方も来られ交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅介護で悩んでおられる方と話す機会を作ることがあるが、あまり実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの雰囲気や利用者様の状態、職員の態度など気付いたことや、改善点などの意見を頂いている。職員で話し合い良いケアが出来るよう努めている。	ボランティアが来てくれる第3水曜日に合わせ、地域包括支援センターなどの参加を得て開催し、出された意見をケアに活かすよう努めています。	事業所の状況を報告するとともに、自己評価や外部評価を活用して話し合いを深め、できれば2ヶ月に1回の開催に向けて努力されることを期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な利用状況の報告をしている。	事故の際の報告や毎月の利用状況・待機者などの情報を伝えながら、協力関係が築けるようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保できるように取り組んでいる。徘徊のある利用者には職員が付き添っている。	身体拘束についての理解を深めるために、知りうる限りの情報をミーティングなどで話し合い、利用者の安全を確保しつつ(徘徊に付き添うなど)、共有と実践に向けてスタッフ全員で取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な言葉かけや態度は職員間で指摘しあうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について勉強し知識や理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの方針や出来ること出来ないことを説明して、家族の疑問や不安な点を尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への定期的な連絡を行い要望を伺い、また会話の中で家族の想いを推察している。職員間で共有してケアに望んでいる。	毎月家族に近況報告をしており、面会時や電話で直接意見や要望を聞くこともあり、利用者とはコミュニケーションをとりながら思いを受け止め、それらをケアに反映させるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見が言いやすい環境づくりをしている。	話しやすい雰囲気があり、ミーティングや普段の会話の中で、意見や提案を述べる機会が確保されています。必要に応じ上司から代表者に伝え、全員での話し合いが持たれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得への支援を行い、本人の意向を重視するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上に向け、内外の研修参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所と交流をもつよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人、ご家族の意向を確認し、生活状況など詳細を把握して、安心して利用していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向や要望を聞き、事業所として支援出来ることをお伝えし、ご理解頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の状態を確認してサービスの選択肢を提示し他事業所やケアマネージャーに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とのコミュニケーションを図り信頼関係を築き、家族的な関係作りを行っている。年長者として教わることも多々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族との連絡を取ってご本人の状態をお伝えしている。またはがきを出すお手伝いをしたている。家族の要望も伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室への付き添いを行ったり、知人が尋ねて来られている。	行きつけの美容室への同行を支援し、知人の来所もあり、週1回の移動販売では、建物内だけでなく近隣の人たちと交流し、馴染みの関係が新しく構築されてきているようです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を職員一人ひとりが把握して、円滑な人間関係が保て楽しく生活出来るように努めている。孤独を好む人も状態をみながら、孤立しないように見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了になられたご家族が遊びに来られたり、他事業所に移られた方にも会いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々関わる中で、表出しない思いや要望を推察し把握するようにして、本人の想いに出るだけ近づく努力をしている。	家族からの聞き取りや、言葉掛けを工夫して利用者とコミュニケーションをとりながら、言葉にならない思いや意向を汲み取り、心のケアができるよう努力されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じプライバシーに配慮して、家族に情報を頂き、職員で共有しながら、理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、心身の状況を把握して、出来ることは行なって頂き、ご本人が安心して過ごしてもらえるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の想いを察し、家族の要望や意見を聞きながら作成している。担当職員含め全職員で話し合いをしている。	3ヶ月に1度モニタリングを実施して状況を把握し、月1回のカンファレンスで話し合い、早急に解決が必要な場合はその都度申し送り、本人・家族の意向を反映した計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース、食事量、バイタルチェック表、排泄表等を記録して利用者様の状態を職員全員で把握している。口頭での申し送りや申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急性や家族の都合・状況に応じて、受診やその他送迎を臨機応変に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、移動販売の利用やボランティアさんのご協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、ご家族・ご本人が希望される医療機関を受診して頂いている。家族対応が困難な場合には職員が付き添っている。	隣接のクリニックの医師による週1回の往診、家族対応による受診、様子のよくわかる職員が付き添っての受診など、適切な医療支援がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、日頃の健康相談や助言、処置を行ってもらっている。変化に気付いたら直ちに報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関との情報交換を行い、家族との連絡も密にとりながら、良い状態で退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご本人・ご家族の意向を確認して事業所で行える支援について説明して理解して頂いている。随時家族の要望を伺いながら医療との連携を図っている。	トイレ・風呂などハード面の制約もあり、看取りの実績は無いが、医療と連携をとり、家族の要望も組み入れながら、ステージに合わせて、微妙な変化に気づき、終末期に向けた対応ができるよう心がけているようです。	グループ内で多くの事業所を抱え、連携がとりやすい利点もあり、今後に向けて、ターミナルケアについて、学びや話し合いを進め、実践に繋げて行かれることを期待しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の処置、連絡など今後も職員の知識を深めていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消化器の使い方や避難経路を定期的に確認している。	介護福祉施設の3階部分にあり、建物全体で共同の避難訓練を年2回(1回は夜間想定)実施しています。緊急連絡網やマニュアルなどの備えもできています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の特性に応じて、本人の意向に添うように声かけを行い、適切なケアが出来るように心がけている。	利用者の尊厳やプライバシーに配慮し、言葉掛けや態度をききチンとしようと、お互いに指摘し合いケアを見つめ直しているそうです。入浴時など同性の介助を心がけているとのことです。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望や希望を都度伺い、また自分から言いやすいように雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本生活リズムの中で、その時の体調や意思を尊重しながら、その人のペースで過ごせるようにケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みのヘアカラーやカットをしてもらっている。好きな洋服を選んで着ておられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会にはその方の希望を聞いて献立を考えている。材料を切って頂いたり後片付けを手伝ってもらっている。	併設の介護福祉施設で作られています。誕生日会には特別メニューとし、職員と利用者が一緒に献立や下ごしらえ、片付けなどを行い、一緒にテーブルを囲み、談笑しながら楽しく食事しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えた食事を一人ひとりの状態に合わせた形態で提供している。出来るだけ自力摂取出来るように声かけ、工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前うがいをを行い、食後歯磨き、うがいをしてもらうように声かけ、見守りを行っている。上手に出来ない方には一部介助行っている。定期的に義歯洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行い、声かけをしている。下着やパット等も個々に合ったものを使用している。最低1回／日は陰洗を行い、排便時にはその都度洗浄を行なって清潔を保てるようにしている。	本人の訴え(牛乳で便秘予防)やおなかを暖めたり、一人ひとりの排泄パターンに合わせて、声掛けや誘導を行い、自立を支援すると共に、清潔が保持できるよう取り組んでいます。。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を確認しながら、飲食物の調整をしている。(牛乳やヨーグルトなど)困難な方は意思や看護師に報告相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調観察をしながら、その方にあった声かけをし安心して入浴して頂けるようにしている。拒否がある方には複数の職員で対応して本人の気持ちが動くように工夫している。	同性の介助を心がけたり、敏感な利用者には相性のいいスタッフが担当するなど配慮されています。拒否がある利用者には複数の職員で対応し、声かけ・誘導に工夫を凝らしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごせるよう、散歩やレクをしている。個々の意思を尊重して自分のペースで過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で服薬説明書を確認出来るようにしている。変更時は口頭と記述にて他職員に伝わるようにして、体調の変化を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に要望を聞きレクを行ったり、得意なことを楽しんで取り組んでもらえるようにしている。手伝いをしてもらった後はお礼の言葉を忘れないようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身状態の低下傾向で少しずつ安易に外出出来なくなっているが、お花見や紅葉狩りなど計画している。個別での買い物や外出も可能な限り機会を設けている。	散歩や買物に出かけたり、牧場にジェラートを食べに行ったり、個別に対応するとともに、全員でリフト車を使いボランティアの協力も得ながら、花見や紅葉狩りに出かけています。階下の移動販売、観音堂へのお参り、屋上への同行など機会を捉え、よく支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	付き添ってレジにて渡してもらったりもするが、殆どの方が一人での金銭管理は困難になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙を家族に送る支援や電話で話す機会があれば話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・廊下に月ごとの季節感あふれる壁画を作成し飾っている。また季節の歌も貼り出して一緒に唄っている。居室には月のカレンダーや季節の塗り絵をして貼ってもらっている。吸湿内の室温・湿度にも気を配っている。	介護福祉施設の3階部分にあり、屋上やホールなど建物内の設備を利用できる利点もあり、全体に利用者とスタッフが共同作業で作り上げた折り紙や貼り絵などが飾られており、カラフルで明るく暖かい雰囲気をかもし出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間的に限度があるが、体調や気分により落ち着ける場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの持ち物を飾りつけたり、お仏壇を置かれている。壁画等で窓に似せる工夫や植木を置いて過ごしやすくしている。	窓からはのどかな田園風景が見渡せ、利用者・家族の意向を取り入れ、馴染みの品や仏壇など思い思いに配置し、居心地のよい空間を作っています。各部屋に加湿器が置かれ、温度と湿度の調節にも気を配っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりを把握して、その人に応じた声かけを行っている。動線上の整備や居室内は安全に過ごせるようその都度整理している		